

放射線技術部便り

～ vol. 17 ～

白十字病院 放射線技術部 広報誌



春日公園のミモザ

ハイブリッド手術室 ができました。

この度、最新鋭の血管撮影装置としてPHILIPS社製Azurionがハイブリッド手術室に導入されました。血管撮影とは、大腿部付け根や手首などの血管よりカテーテルと呼ばれる細い管を挿入し、造影剤や治療機器を用いて血管内検査及び治療(IVR:インターベンシヨナルラジオロジー)を行う装置です。

Azurion は高画質かつ低被ばくで検査や治療を行うことが可能です。様々な新テクノロジーが搭載されており、患者さまだけでなく術者にも優しい設計となっています。Azurionにプログラムされた最新のアプリケーションを用いることで、頭部領域・腹部領域・大血管領域・末梢血管領域など、全身の検査や治療が安全かつスムーズに施行できます。

当院では脳梗塞など緊急を要する虚血性疾患の治療などに、医療スタッフが24時間体制で対応しています。

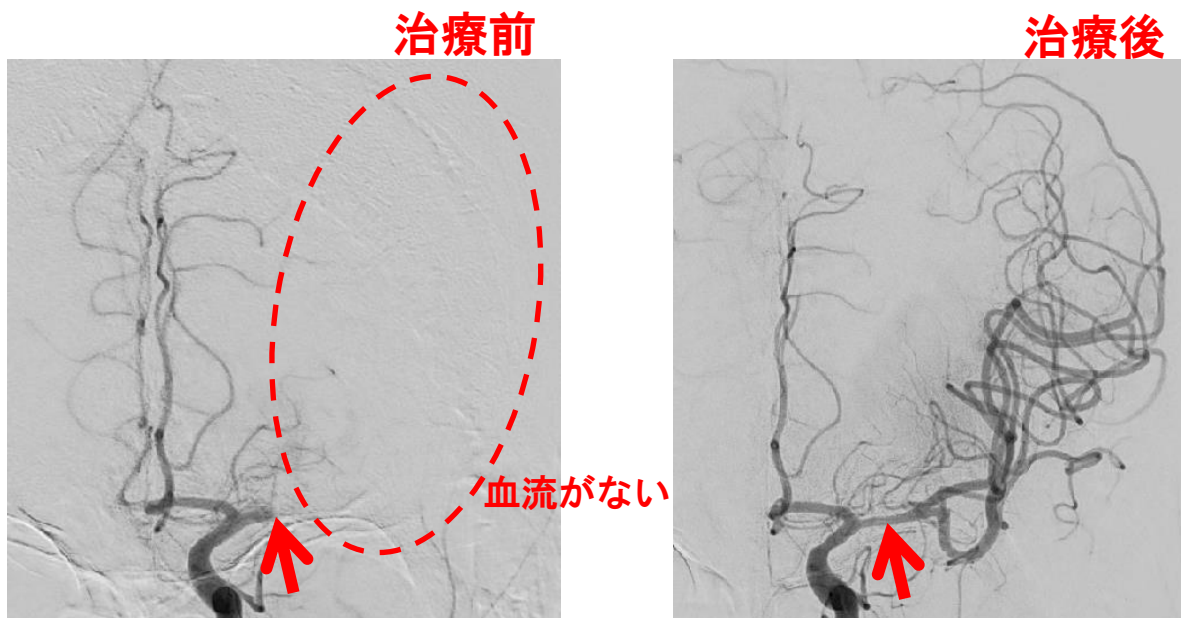


ハイブリッド手術室とは・・・
従来の手術室に血管X線
装置が組み合わさった
手術室のことです。

急性期脳梗塞に対する 脳血管内治療

脳卒中などの「脳血管疾患」は、寝たきりの原因となる最も多い疾患であり、適切な治療が求められています。脳卒中を疑ったら、できるだけ早期に治療を受けることが重要です。脳梗塞などで脳の血流が止まったために一度破壊された脳細胞は、元に戻ることがありません。このため、できるだけ早く治療を開始し、脳のダメージを抑えることが大事になります。

発症から時間がまもない脳梗塞では、ハイブリット手術室でAzurionを使用したカテーテル治療が可能となります。ステント型カテーテルや吸引型カテーテルを用いて太い血管に詰まった血栓を除去することで、広範囲な脳梗塞の進行を抑えることができます。



治療前は赤い矢印の部位に血栓があるため、その先の血管に血液が流れていない状態です。

治療後は血栓が除去され詰まっていた血管が開通し、血液の流れが改善されています。

当院では4月より治療を開始し、30人(脳血管内治療全体は80症例)の患者さんがこの治療を行いました。福岡市西部地区で急性期脳梗塞の血管内治療を24時間体制で行えるのは当院のみです。これからも西部地区の地域医療の為尽力していきたいと思っております。